

令和4年度 第5回板倉区地域協議会 次第

日時：令和4年6月17日(金)
午後6時～

場所：板倉コミュニティプラザ
201・202会議室

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 所長あいさつ
- 4 報告事項
 - ・中山間地域農業の維持・振興に向けたワークショップの開催状況と今後の展開について
- 5 協議事項
 - ・意見交換会について
- 6 その他
 - ・地域協議会だより編集委員会について
 - ・委員研修アンケートについて
 - ・4区地域協議会合同研修会について
- 7 閉 会

中山間地域農業の維持・振興に向けた
地域自治区別ワークショップ(みらい農業づくり会議)
開催状況及び今後の展開

令和4年6月17日(金)

上越市中山間地域元気な農業づくり推進協議会
板倉区推進チーム

令和3年度における開催状況及び今後の展開について

中山間地域農業の維持・振興 「ありたい姿」(将来の方向性)

地域農業者が
主体的に議論し、
共有する

課題解決に向けたテーマ別方策

担い手・後継者の確保



農業生産維持に向けた
作物選定・所得確保



農業機械・スマート農機の
共有化・共同利用



土地利用の明確化・
農地条件の改善



活動のエンジンとなる組織

市の役割

推進チーム(市・県・JA・農業委員会)として

「ありたい姿」の実現に向けて定められた方策に対する各種支援

令和3年度

幅広い参加者が率直な意見・考えを出し合い、
中山間地域農業のあるべき姿、理想的な姿を共有し、
4つのテーマごとに、実現に必要な取組を見出す

令和4年度

- 見出された必要な取組の具体化を検討・共有
「いつ」 「誰が」 「どうやって」
- 取組を下支えする「活動のエンジンとなる組織」の検討

令和5年度以降

共有された取組の実践

中山間地域等直接支払交付金 集落戦略の作成などの各種施策へも反映

- ・ 中山間地域等直接支払制度に取り組む地区がある

7の地域自治区で各2回開催

～理想的な中山間地域農業のあるべき姿を広域的観点で探る

- ・ 直接支払集落協定や集落の役員だけでなく、

若手や女性など幅広い世代の農業者が参加

～発言しやすい環境づくりのため、性別・年代を偏らせたグループ編成

- ・ 話し合いを促すファシリテーターとして

市、県、農業委員会、農協で構成する「推進チーム」を編成

～各々が担当する立場で、地域の意見を吸い上げる心構えで臨む

延べ14回・444名が議論に参加

谷浜・桑取区
12月14日(火)・3月29日(火)
延べ60名参加

吉川区
11月19日(金)・3月23日(水)
延べ63名参加

大島区
11月30日(火)・3月24日(木)
延べ69名参加

名立区
8月20日(金)・12月21日(火)
延べ69名参加

安塚区
11月25日(木)・3月25日(金)
延べ65名参加

板倉区
11月26日(金)・3月22日(火)
延べ56名参加

牧区
11月29日(月)・3月23日(水)
延べ62名参加

※浦川原区:明治大学主導のフューチャーデザイン・ワークショップ
※中郷区・清里区:新潟県主導のビレッジプラン
※柿崎区:第5期対策開始時に協定広域化議論実施済

第1回開催(令和3年12月まで)

第2回開催(令和4年3月まで)

人・農地・地域の
「強み」「弱み」
の洗い出し

「強み」を伸ばし、
「弱み」を克服する
“方策”の検討

第1回で出た意見を踏まえて
取組方向性や
キャッチフレーズ(CP)
の決定

取組方向性やCPを踏まえて
今取り組めるもの、
将来取り組むべきもの
の検討

ワークショップ参加者の約束ごと

気軽に、楽しく、中身濃く

- ・自分ばかり話しません
- ・相手の意見を否定しません
- ・楽しい雰囲気を大切にします
- ・参加者は対等です
- ・皆が気持ちよく話せるようにします

第1回 地域の「強み」「弱み」と「方策」の洗い出し

第2回 方向性の決定と必要な取組の検討



意見の数から
優先順位付け

集計結果から見えた最優先で取り組むべき項目

- A 「人口減少・少子高齢化」を一定程度受容しつつ、「人間性・地域性」を活かして、「人・担い手」を確保
- B 「特徴・自慢・素材」を活かして、「活力・付加価値」を創造
- C 既存の「作業性・生産性」の強みを活かして、更に向上

出された意見をつないで、テーマ別に「方向性」を見出し、2回目で検討・決定

将来に向けた方向性

担い手・後継者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> • 移住者の受け入れを促進します • 将来的に、空き家を活用した移住者向け住宅整備を検討します • ボランティアの募集・受入体制を整備します • 将来的に、人材(リーダー)育成組織の立ち上げを検討します
農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> • ソバの生産・販売を強化します • 板倉区や農業の良さをPRする手法を検討します • 雪や観光地を活用した販売方法を検討します
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	<ul style="list-style-type: none"> • 平場の農業者と連携し、スマート農業の導入及び中山間地域及び平場の共同による農地と農業用施設の維持管理を目指します
土地利用の明確化・農地条件の改善	<ul style="list-style-type: none"> • 令和4年度に行う「集落戦略の作成」において、第6期対策(令和7年度～)に向けて、守るべき農地・活用可能な農地を線引きします • その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を優先順位を付けて実施します

活動のエンジンとなる組織の育成強化(上記を下支え)

参加者の率直な考えを付箋に書き出し、
関連するカテゴリーに分類するとともに、さらにグルーピング

板倉区では、

付箋枚数250枚

に及ぶ強み・弱み・方策を洗い出し

第2回 方向性の決定と必要な取組の検討

集計結果から見えた最優先で取り組むべき項目

- A 「人口減少・少子高齢化」を一定程度受容しつつ、「人間性・地域性」を活かして、「人・担い手」を確保
- B 「特徴・自慢・素材」を活かして、「活力・付加価値」を創造
- C 既存の「作業性・生産性」の強みを活かして、更に向上

出された意見をつないで、テーマ別に「方向性」を見出し、2回目で検討・決定

将来に向けた方向性	
担い手・後継者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住者の受け入れを促進します ・ 将来的に、空き家を活用した移住者向け住宅整備を検討します ・ ボランティアの募集・受入体制を整備します ・ 将来的に、人材(リーダー)育成組織の立ち上げを検討します
農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソバの生産・販売を強化します ・ 板倉区や農業の良さをPRする手法を検討します ・ 雪や観光地を活用した販売方法を検討します
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平場の農業者と連携し、スマート農業の導入及び中山間地域及び平場の共同による農地と農業用施設の維持管理を目指します
土地利用の明確化・農地条件の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度に行う「集落戦略の作成」において、第6期対策(令和7年度～)に向けて、守るべき農地・活用可能な農地を線引きします ・ その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を優先順位を付けて実施します
活動のエンジンとなる組織の育成強化(上記を下支え)	

①キャッチフレーズの決定

板倉区らしさである
米とソバの美味しさを活かして、
インターネットにより、
板倉の農業を世界に広げます

②将来に向けた方向性と キャッチフレーズを踏まえた 必要な取組の検討

「今取り組めるもの」

「将来取り組むべきもの」の検討

令和3年度における地域自治區別ワークショップの開催状況 ～キャッチフレーズ・将来の方向性～

地域自治区	キャッチフレーズ	将来の方向性			
		担い手・後継者の確保	作物選定・所得確保	機械共同化・スマート農機導入	土地利用・農地条件
谷浜・桑取区	谷浜・桑取区らしきである海から山までの地域資源を活かし、地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします	<ul style="list-style-type: none"> 谷浜・桑取区の「らしき」「ならでは」であるNPOや生産組合等の既存組織の活力、歴史や伝統の継承、人と人とのつながりなどを活かし、「見る」から「体験」までのきっかけづくりを大切に農業と地域の担い手確保、コロナ禍における第2のふるさとづくりに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な山・海のめぐみや貴重な地域資源を活かした食のブランド化に向けた取組を推進します。 谷浜・桑取区の今(ひと・食・伝統・くらし など)を発信し、さらなるファンづくりに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な水資源や水源涵養活動を活かし、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。
安塚区	安塚区らしきである豊かな自然と雪を活かし、ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします	<ul style="list-style-type: none"> 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。 将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 豊かな自然環境を活かして、定住化(UIJターン)に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> スキー場と温泉の交流人口を活かした情報発信を行い、豊かな環境のもとで作られた農産物売り込みます。 雪室を活用した農産物の高付加価値化を図るとともに、様々な販売ルートを通じて、安塚区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。 雪室を利用した特産品を開発します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
大島区	大島区らしきである人や物・自然の豊かさを活かし、楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします	<ul style="list-style-type: none"> 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。 将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 豊かな自然環境を活かして、定住化(UIJターン)に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> SNS等を活用して、豊かな自然環境やホテルなどの地域の宝をPRし、農業体験イベントを通じた交流を促進します。(結果として、農産物の販売促進や担い手・後継者の確保にもつながる) 棚田米等の高付加価値化を図り、様々な販売ルートにより大島区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
牧区	牧区らしきである自然・棚田・人情を活かし、SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を活用した移住の手法を検討します。 ボランティアの募集・受入体制を整備します。 女性の農業参入を促進するため、環境を整備し、将来的には農業で集落内外の人材を雇用します。 	<ul style="list-style-type: none"> 牧区の自然を活用した販売促進、イベントの開催を検討します。 様々なメディア(媒体)を使用し、牧区の魅力や歴史、商品をPRします。 	<ul style="list-style-type: none"> 各生産組合・農事組合法人で連携し、スマート農業の導入を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に、基盤整備(農地・農道・水路・ため池)の構想を検討します。特に水不足に対応するため、既存のため池の有効利用も含めて、用水の確保をします。
吉川区	吉川区らしきである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、移住の促進と交流人口の拡大することにより、担い手農家の確保・育成を図ります	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、広域的な集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> 吉川区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「吉川ブランド」を確立させます。 SNSやネット販売などを通じて吉川ブランドを発信します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に行った「集落戦略」を見直し、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地を明確化します。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。
板倉区	板倉区らしきである米とソバの美味しさを活かし、インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の受け入れを促進します。 将来的に、空き家を活用した移住者向け住宅整備を検討します。 ボランティアの募集・受入体制を整備します。 将来的に、人材(リーダー)育成組織の立ち上げを検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ソバの生産・販売を強化します。 板倉区や農業の良さをPRする手法を検討します。 雪や観光地を活用した販売方法を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 平場の農業者と連携し、スマート農業の導入や中山間地域・平場の共同による農地と農業用施設の維持管理を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に行う「集落戦略の作成」において、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地・活用可能な農地を線引きします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。
名立区	名立区らしきである豊富な資源を活かし、地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> 名立区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。 SNSやネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体的な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。

谷浜・桑取区

谷浜・桑取区らしきである海から山までの地域資源を活かし、
地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします

安塚区

安塚区らしきである豊かな自然と雪を活かし、
ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします

大島区

大島区らしきである人や物・自然の豊かさを活かし、
楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします

牧区

牧区らしきである自然・棚田・人情を活かし、
SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします

吉川区

吉川区らしさである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、
移住の促進と交流人口の拡大することにより、
担い手農家の確保・育成を図ります

板倉区

板倉区らしさである米とソバの美味しさを活かし、
インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます

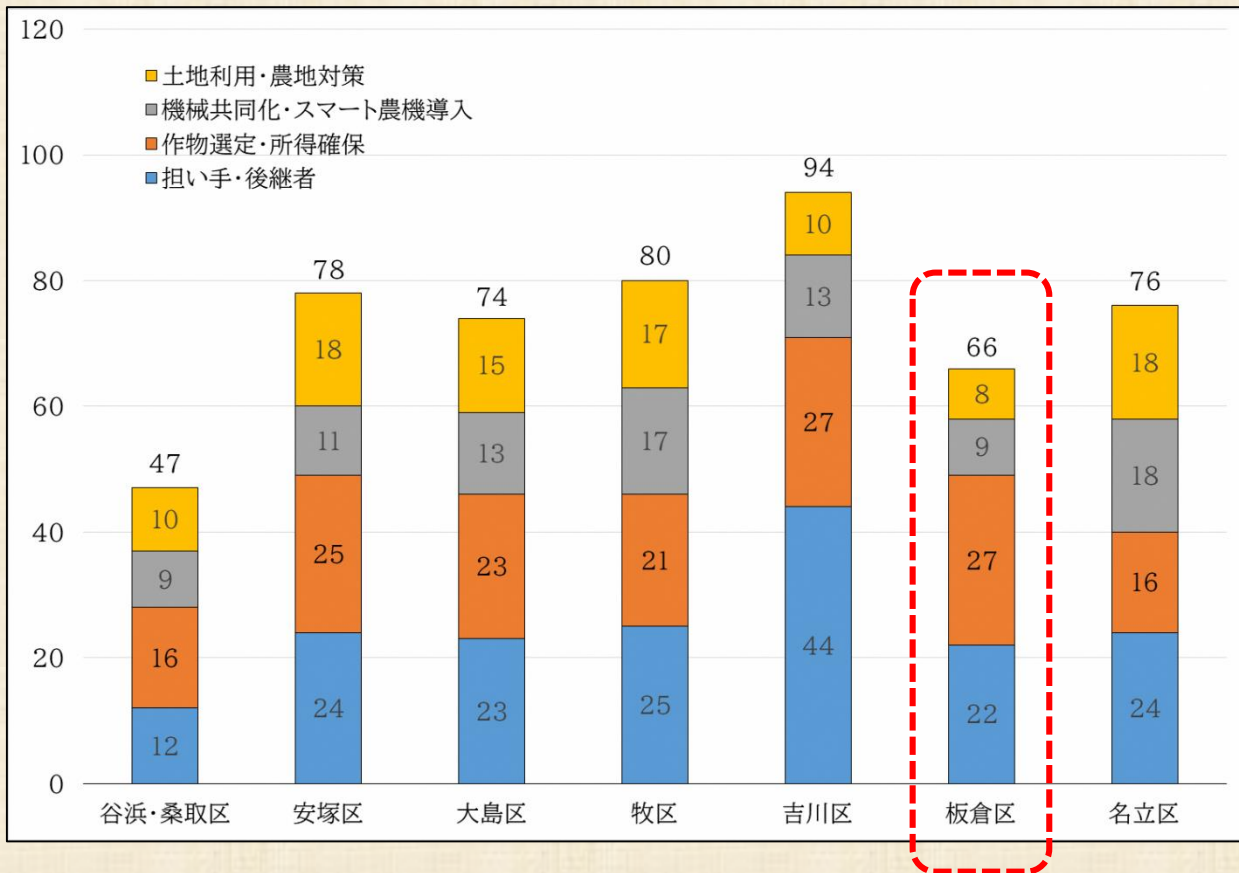
名立区

名立区らしさである豊富な資源を活かし、
地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます

令和3年度における地域自治区別ワークショップの開催状況 ～見出された取組の例～

課題解決に向けたテーマ	見出された取組の例	
	今取り組めるもの	将来取り組むべきもの
担い手・後継者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 空き家情報の再整理、利用可能な建物リストアップ 移住者を一定期間雇用することを約束(行政機関、JA、地元企業など) 板倉の良さを感じられる移住体験の機会をつくる SNS等での移住PR リーダー育成のため、先進地域への研修、派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア、移住希望者の受付組織立ち上げ 空き家、空き農地バンクの立ち上げ お試し移住+農業(妙高のクラインガルテン)のような設備をつくる リーダーの育成 共同生産組織の立ち上げ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">移住者に関することが多い</div>
作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> 市内親子をターゲットにした農業体験 観光の促進+農産物の販売(恵信関連団体への売り込み) SNSによる発信、市や県の特産物販売サイト活用 米、ソバのブランド名を決める 	<ul style="list-style-type: none"> 観光産業とのタイアップ 雪下野菜、雪を利用した商品の開発 米、ソバ以外の農産物の開拓 ジビエ加工施設の整備 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">SNS発信、新たな商品開発、新たな作物への意欲が高い</div>
機械共同化・スマート農機導入	<ul style="list-style-type: none"> 平場の農業法人への作業委託、共同のイベントを通して担い手が確保できる環境づくり ドローンによる農薬散布、区全体で共同利用できる農業機械の導入 機械に何を求めるか、ニーズの把握 	<ul style="list-style-type: none"> 平場農業者と中山間地農業者の話し合いの場の設定、平場農業者の中山間農地への参入 大型農機の共同利用 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">平場と中山間地の連携、協同活動への志向が高い</div>
土地利用・農地条件	<ul style="list-style-type: none"> 現状確認のフィールドワーク、地籍調査の再開 農道、用水路管理道、用水乗入道路の整備 レンタル農園の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 耕作者のいない農地の協同作業 農地の整備 農機具レンタルセンターの設立 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">耕作条件の改善、効率化への志向が高い</div>

各区におけるテーマ別取組数
(区内での関心度)



テーマ別取組構成比率の各区と7区全体との差
(市内における関心度の差)

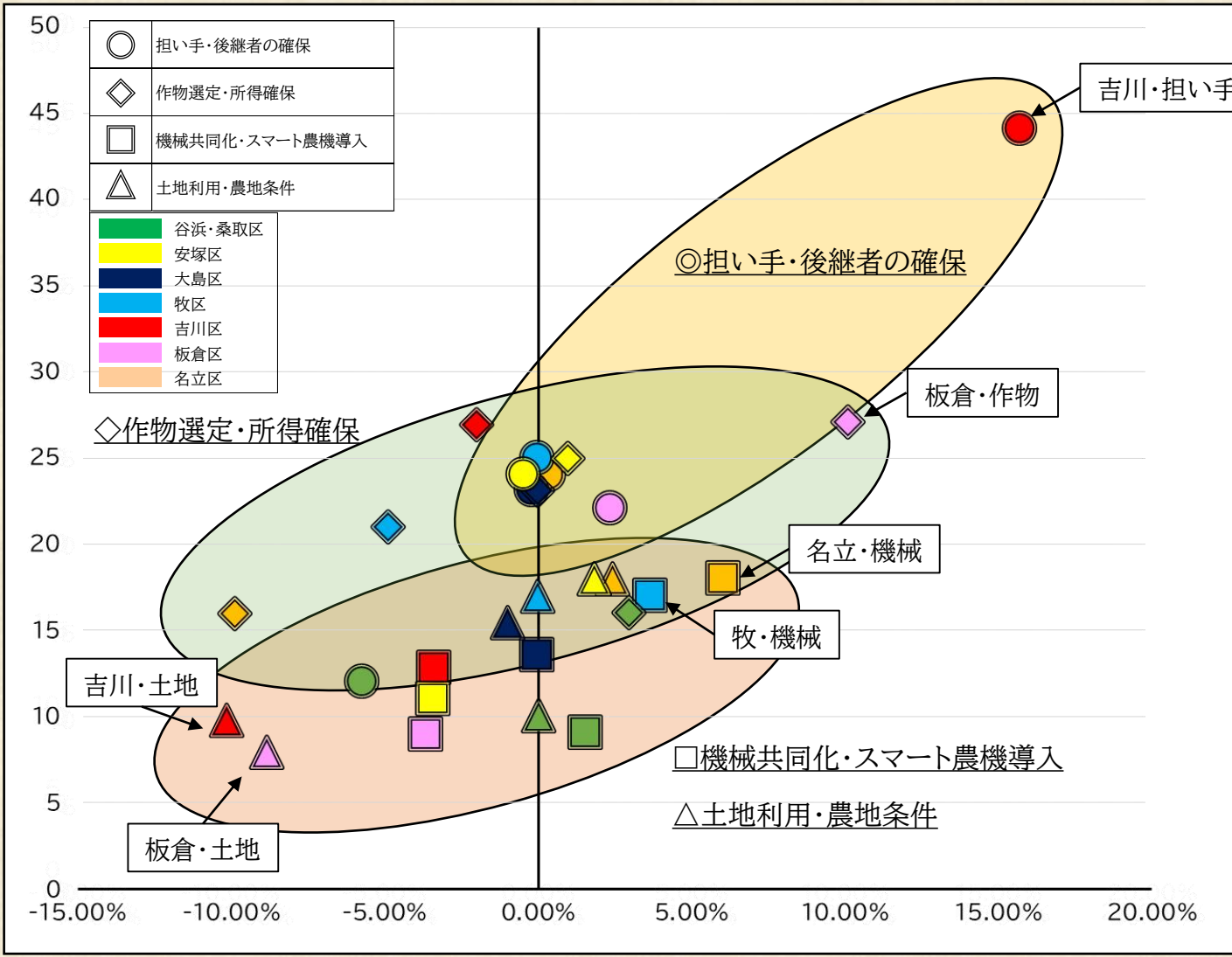


「作物選定・所得確保」に関する取組が多く見出され、
次いで、「担い手・後継者」に関する取組が多い傾向に

板倉区では「作物選定・所得確保」が
市内平均に比べて、突出して高い比率に

第2回目で見出された取組の数と地区別傾向

(区内での関心度)



各区構成比率と7区構成比率との差
(市内における関心度の地域差)

◎担い手・後継者の確保

- ほぼ全ての区で見出された取組数が最も多くなっており、関心が高い取組と考えられる。
- 吉川区で取組数と構成比率差が特に突出している。

◇作物選定・所得確保

- 「担い手」に次いで取組数が多く見出されているが、各地区で構成比率差が大きい。
- 板倉区で取組数と構成比率差が+で突出している。

□機械共同化・スマート農機導入

- 「担い手」や「作物」に比べると取組数が少ないが、牧区や名立区では構成比率差が+で大きくなっており、関心が高いものと考えられる。

△土地利用・農地条件

- 「機械」と同様に「担い手」や「作物」に比べると取組数が少なく、特に吉川区と板倉区では構成比率差が- (マイナス) で大きくなっている。

6月

第3回みらい農業づくり会議

グループワーク

10月

第4回みらい農業づくり会議

第2回目の議論で見出された
テーマ別の「必要な取組」

「今取り組めるもの」
「将来取り組むべきもの」

を、グループワークでの
議論材料として整理

担い手・後継者の確保

作物選定・所得確保

機械共同化・スマート農機導入

土地利用・農地条件

活動のエンジンとなる組織

グループワークでの
議論を集約化し、
地域将来ビジョン

として決定・共有

課題解決のテーマ別に取り組の具体化を議論
(いつ、誰が、どうやって)

各種取組を展開

第2回板倉区みらい農業づくり会議
令和4年3月22日(火) Aグループ

担い手・後継者の確保・育成	農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	土地利用の明確化・農地条件の改善
<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移住者の受け入れを促進します。 ● 将来的に、空き家を活用した移住者向け住宅整備を検討します。 ● ボランティアの募集・受入体制の整備をします。 ● 将来的に、人材(リーダー)育成組織の立ち上げを検討します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ソバの生産・販売を強化します。 ● 板倉区や農業の良さをPRする手法を検討します。 ● 雪や観光地を活用した販売方法を検討します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平場の農業者と連携し、スマート農業の導入及び中山間地域及び平場の共同による農地と農業用施設の維持管理を目指します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和4年度に行う「集落戦略の作成」において、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地・活用可能な農地を導きます。 ● その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を優先順位を付けて実施します。
<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>

第2回板倉区みらい農業づくり会議
令和4年3月22日(火) Bグループ

担い手・後継者の確保・育成	農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	土地利用の明確化・農地条件の改善
<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移住者の受け入れを促進します。 ● 将来的に、空き家を活用した移住者向け住宅整備を検討します。 ● ボランティアの募集・受入体制の整備をします。 ● 将来的に、人材(リーダー)育成組織の立ち上げを検討します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ソバの生産・販売を強化します。 ● 板倉区や農業の良さをPRする手法を検討します。 ● 雪や観光地を活用した販売方法を検討します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平場の農業者と連携し、スマート農業の導入及び中山間地域及び平場の共同による農地と農業用施設の維持管理を目指します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和4年度に行う「集落戦略の作成」において、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地・活用可能な農地を導きます。 ● その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を優先順位を付けて実施します。
<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>

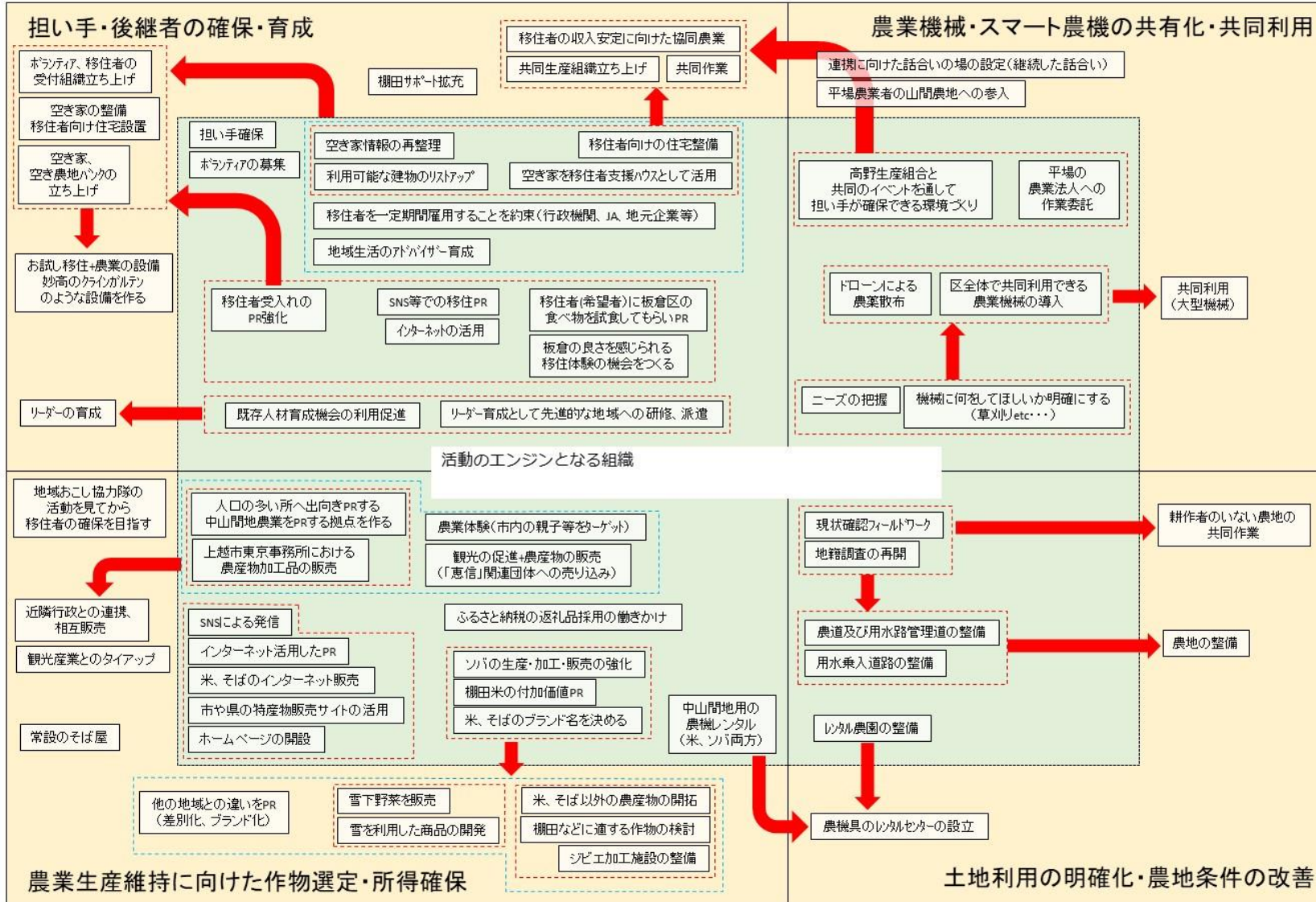
第2回会議で個々のグループで出された意見を

第2回板倉区みらい農業づくり会議
令和4年3月22日(火) Cグループ

担い手・後継者の確保・育成	農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	土地利用の明確化・農地条件の改善
<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移住者の受け入れを促進します。 ● 将来的に、空き家を活用した移住者向け住宅整備を検討します。 ● ボランティアの募集・受入体制の整備をします。 ● 将来的に、人材(リーダー)育成組織の立ち上げを検討します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ソバの生産・販売を強化します。 ● 板倉区や農業の良さをPRする手法を検討します。 ● 雪や観光地を活用した販売方法を検討します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平場の農業者と連携し、スマート農業の導入及び中山間地域及び平場の共同による農地と農業用施設の維持管理を目指します。 	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和4年度に行う「集落戦略の作成」において、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地・活用可能な農地を導きます。 ● その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を優先順位を付けて実施します。
<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>	<p>【今から取り組めるもの】</p> <p>活動のエンジンとなる組織の育成強化</p>

板倉区みらい農業づくり会議

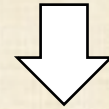
板倉区らしさである米とソバの美味しさを活かし、インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます



集約化した上で、整理

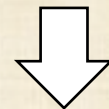
同じ取組でも、

- ・「今」「将来」の双方にある
- ・複数のテーマにまたがっている



その取組が属するべきと思われる「テーマ」「時間軸」をグループごとに話し合って整理

活動のエンジンとなる組織のイメージを整理



グループワークの材料

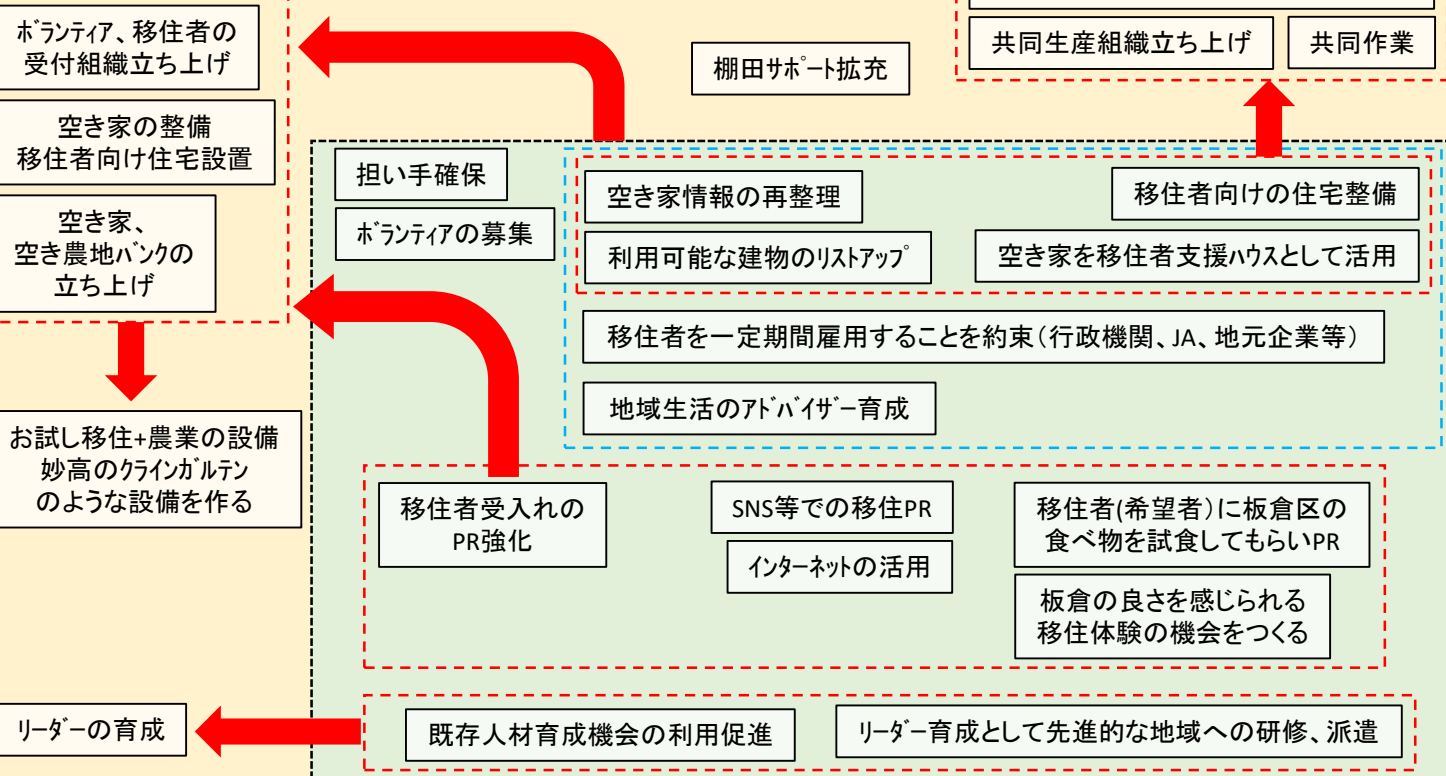
県事業等による取組の概要

地域 自治区	取組手法 (実施主体)	会議の名称	取組概要	これまでの取組	今後の予定
浦川原区	フューチャー デザイン・ ワークショップ (明治大学)	浦川原区みらい 農業づくり会議	参加者が「現代世代」と「仮想将来世代」になりきり、地域が抱える課題への対応策検討をそれぞれの視点で議論することにより、長期的な視点に立った対応策を見出す。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度にワークショップを2回開催 地域の資源や取り組むべき方策について洗い出すとともに、「未来人」の視点で「残したいもの」「変えてはならないもの」などを議論した。 	令和3年度に議論した内容を、他の地区同様に課題解決に向けた5つのテーマ別に振り分け、必要な取組の設定・共有を行う。
中郷区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	中郷区農業の 未来を考える会	<p>参加者が、人口推計に基づく地域の人口減少危機を具体的に把握した上で、地域の維持に向けた定住目標や活性化の取組を検討し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状分析 人口推計に基づいて予測される将来の人口と農業者の減少を緩和する「人口安定化シナリオ」(定住目標)や、地域の人的資源を洗い出す「地元関係図」を作成 将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。 将来プランの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2・3年度に計9回のワークショップを開催し、「将来プラン」を策定 重点取組項目として、「中郷ブランドづくり」「都市農村交流の促進」「女性の活躍の場創出」「必要な体制づくりや広域連携」を見出した。 	令和3年度に定めた「将来プラン」に基づき、年次計画で各種の取組を実践
清里区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	「きよさと未来予想図」を作る会	<ul style="list-style-type: none"> 将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。 将来プランの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度にワークショップを6回開催 地元関係図の作成過程から、基本的な方針として、地域の維持に必要なサービス(就労場所)を提供する3つの広場(山・農・村)の形成を目指すこととした。 	令和3年度の議論を踏まえ、「将来プラン」への昇華を目指し、参加者による区内踏査(6月)や、モデル事業の実施(10月)を予定

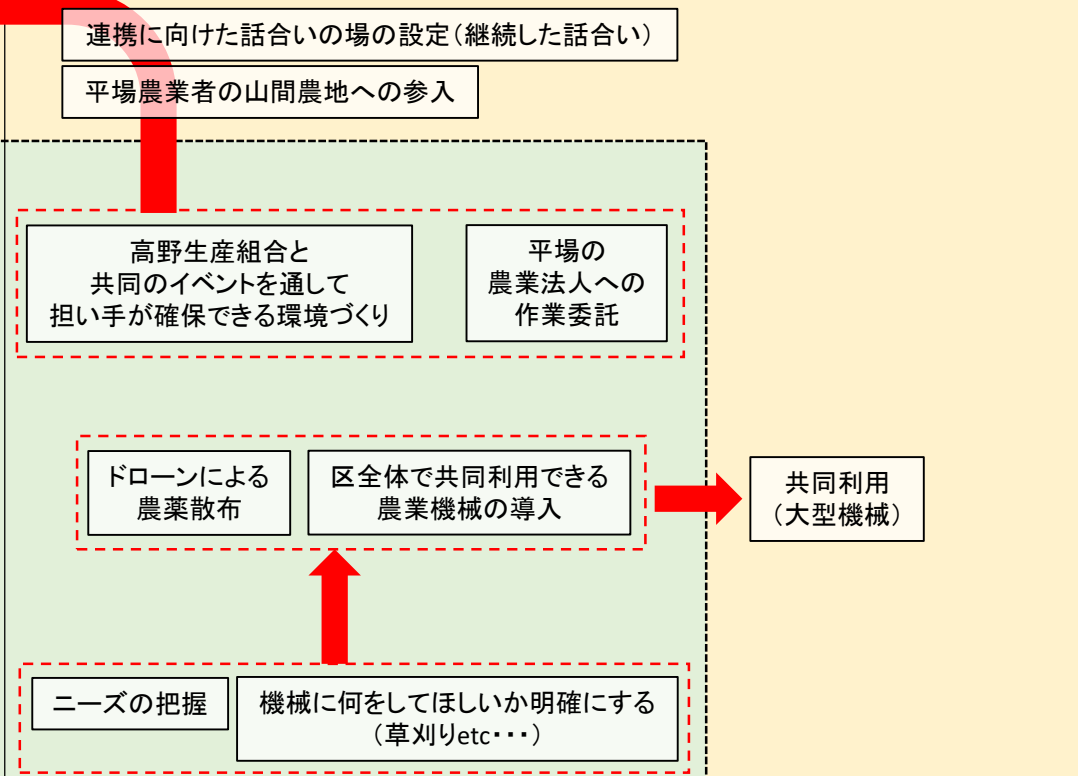
板倉区みらい農業づくり会議

板倉区らしさである米とソバの美味しさを活かし、インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます

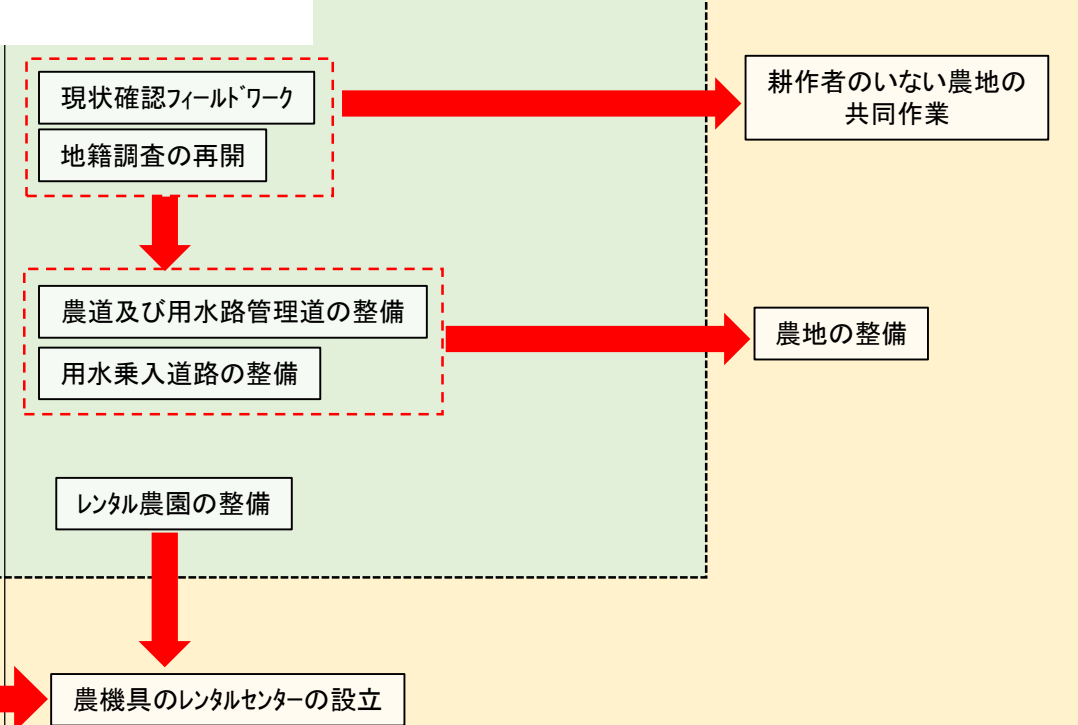
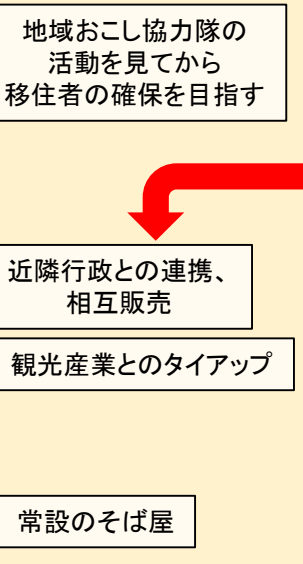
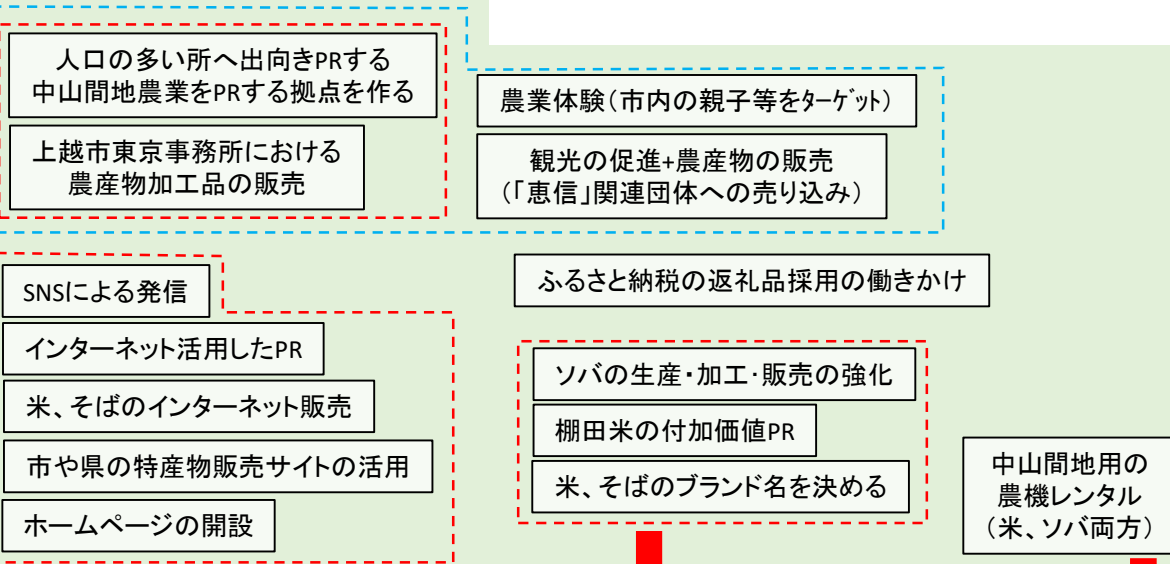
担い手・後継者の確保・育成



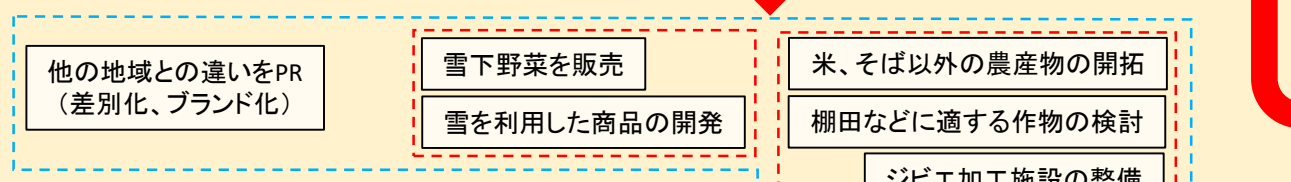
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用



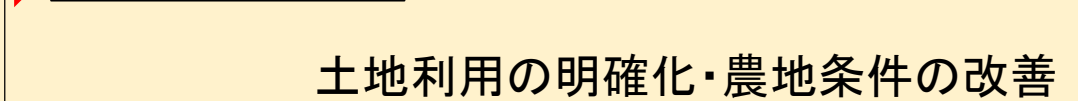
活動のエンジンとなる組織



農業生産維持に向けた作物選定・所得確保



土地利用の明確化・農地条件の改善



令和4年度板倉区地域協議会 意見交換会について

1 意見交換会日時（会場）、役割分担（案）

- ・ 7月15日（金）午後7時～ 筒方地区（旧筒方小学校）
（進行係：秋山委員、記録係：手塚委員）
- ・ 7月22日（金）午後7時～ 豊原地区（板倉コミュニティプラザ）
（進行係：植木委員、記録係：山本委員）
- ・ 7月23日（土）午後6時～ 寺野地区（下西ふれあいセンター）
（進行係：吉田委員、記録係：長藤委員）
- ・ 7月24日（日）午後2時～ 針地区（板倉コミュニティプラザ）
（進行係：下鳥委員、記録係：田中委員）
- ・ 7月30日（土）午後5時～ 宮島地区（板倉コミュニティプラザ）
（進行係：庄山委員、記録係：池田委員）
- ・ 7月31日（日）午後7時～ 山部地区（ぬしんの里記念館）
（進行係：西田委員、記録係：下鳥委員）

(担当委員)

地区名	会長・副会長	委員	委員	委員	委員
針地区	平井会長	小林委員	西田委員	下鳥委員	田中委員
山部地区	平井会長	吉田委員	小林委員	西田委員	下鳥委員
寺野地区	平井会長	手塚委員	吉田委員	田中委員	長藤委員
宮島地区	古川副会長	植木委員	庄山委員	山本委員	池田委員
筒方地区	古川副会長	池田委員	長藤委員	秋山委員	手塚委員
豊原地区	古川副会長	庄山委員	秋山委員	山本委員	植木委員

2 当日の流れ（案）

- 開会
- 連協会長あいさつ
- 地域協議会長あいさつ
- 報告 ①板倉区自主的審議事項の審議経過等について（各部会）
②地域の課題についてのアンケート結果について
- 意見交換
- 閉会

地域の課題について

区 分	内 容	区 分	内 容
道路や除雪	<ul style="list-style-type: none"> ・集落の水路や道路が補修できない。(財源) ・冬期間、道幅が狭くなり緊急車両が入れない。 ・排雪場所の不足 ・消雪パイプを入れてほしい。(除雪困難) ・市道の整備(舗装の割れ、道路脇の除草の改善) ・集落内の除雪が高齢化により困難 	地域の各種団体活動	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の会員減少、メンバーの高齢化、財源不足、活動維持困難 ・各種団体の解散や活動の停滞 ・次の世代に引き継ぎ困難のため事業が継続できない。 ・少子化による小学生のチーム存続困難 ・地域活動支援事業に代わる支援、補助策要望
災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・別所川の災害への不安(宮島地区) ・大熊川中洲の土砂体積への不安(山部地区) ・災害時の避難所の耐震性や高齢者の避難方法の不安 ・国川の地すべり跡地の復興事業の継続について ・防災行政無線の運用について 	観光、名所	<ul style="list-style-type: none"> ・現在ある観光資源を生かし全国へ向け発信すべき(狼煙や焼山城跡) ・コンパクトDMO観光への取組みの推進 ・聖の窟までの道路状況の改善 ・山寺薬師の杉の枯れ枝伐採、参道の整備 ・箕冠城址のあり方(管理、活用) ・パノラマ街道の魅力発信(休憩所の設置、情報発信など) ・観光の推進(日本でここだけの「恵信尼終焉の地」を発信し誘客する。) ・光ヶ原高原キャンプ場の安定的な維持管理 ・観光事業、地域振興事業に係る関係団体との連携と板倉区の観光事業の在り方の検証 ・やすらぎ荘の存続 ・やすらぎ荘の存続いかんによっては、シバザクラの維持管理が困難になる ・つなぐ棚田遺産の全国発信
山林や農地	<ul style="list-style-type: none"> ・町内、個人所有の山林、山道の倒木や陥没への対応 ・農産物の生産低下、耕作放棄地の拡大、休耕田の活用 		
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の増加と維持管理困難 ・高齢者の免許返納による公共交通の充実 ・公園の遊具、施設等の老朽化による危険性、点検 ・高齢世帯の買い物不安 ・高齢化による、町内の草刈り、掃除困難 ・鳥、獣害の増加 ・地域の情報化の推進(高齢者世帯への必要な情報提供のあり方) ・介護予防の取組、介護認定者の増加への対策 	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・旧宮嶋小学校、旧山部小学校の跡地利用、敷地の管理 ・旧寺野小学校のグループホーム撤退後の活用
住民組織、まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、過疎化による町内会役員の選出困難 ・リーダー育成の必要性 ・イベント、祭りの継続不安(運営メンバーの固定化やマンネリ化、労力負担、熱意低下) ・女性の意見を吸い上げる場所がない ・団地の世帯との接点がない。近所付き合いが薄い ・振興会の地域密着型組織としての在り方 ・板倉区がどういう地域であるべきかの明確化 		

※令和4年4月、6地区連協及び過去に地域活動支援事業を活用した団体へアンケートを実施し、提出された回答を整理したもの。